

温泉を利用した通所リハビリ施設

平成28年3月に完成

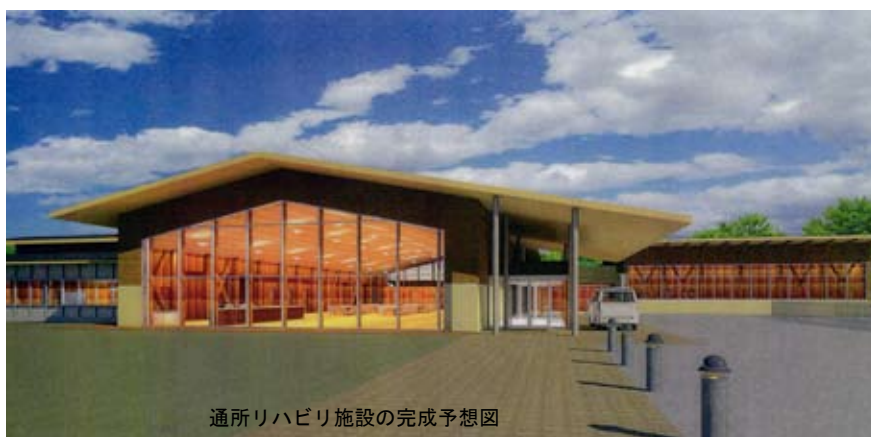
社会福祉法人「筑西会」の介護老人保健施設「すばる」通所リハビリ施設建設の地鎮祭が11月2日、建設現場で行われました。城西グループや工事関係者、地権者をはじめ、前場文夫結城市長、中田松雄結城市議会議員、臼井平八郎県議らも駆け付け、工事の安全と早期完成を祈りました。

この通所リハビリ施設は、地下1500㍍まで掘削して噴出した温泉を利用し、介護保険の認定者を対象に温浴リハビリを行います。

建物は延べ約1800平方㍍、木造平屋建てで、大子のヒノキや八溝杉などの優れた本県材をふんだん



地鎮祭で鍬入れをする多田正毅理事長



通所リハビリ施設の完成予想図



大人気の足湯。1日平均300人が訪れる

に使った施設です。温泉は約40～43度で、弱アルカリ温泉で、美人の湯とされ、ナトリウム塩化物温泉で湯冷めしにくく、傷などにも効果があるとされています。この温泉の効果を生かし、広々とした空間で温浴リハビリができるように、幅約5㍍、長さ約10㍍、深さ約1㍍の大浴場を使うことのできる設計になっており、来年3月完成を予定しています。

多田正毅理事長は「中身が充実しないといけない。城西グループが一丸となって作っていききたい。施設開放についても検討していきたい」とあいさつしました。

平成27年

11月2日



地下1500㍍まで掘削したやぐら（撤去済み）